

新庁舎の検討状況については、これまで「広報こおり」を活用し町民の皆様へお知らせしてきましたが、今後は、検討状況をより詳しくお伝えするために、「新庁舎建設ニュース」を随時発行し、最新の情報を皆様にお知らせしていきます。

新庁舎町民アンケート調査結果の概要をお知らせします

4月から5月にかけて実施した新庁舎町民アンケート調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。アンケートへのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

このアンケートは、庁舎建設の位置や理念についての基本的な方向性(基本構想)が3月にまとまったことを受け、新庁舎の詳細について、町民の皆様のご意見を今後策定する基本計画に反映させるために実施したものです。

新庁舎建設に関する町民アンケート調査	
問1. お住まいの地区について、当てはまる番号を○で囲んでください。	
1. 桑折地区	3. 伊達崎地区
2. 睦合地区	4. 半田地区
問2. 性別について、当てはまる番号を○で囲んでください。	
1. 男性	2. 女性
問3. 年齢について、当てはまる番号を○で囲んでください。	
1. 10歳代	5. 50歳代
2. 20歳代	6. 60歳代

アンケートのうち、新庁舎において重視すべき具体的な機能や設備については、強靱な庁舎の構造、窓口の集約配置、広い駐車場、町民利用兼災害対策スペースなどに多くの支持が集まりました。

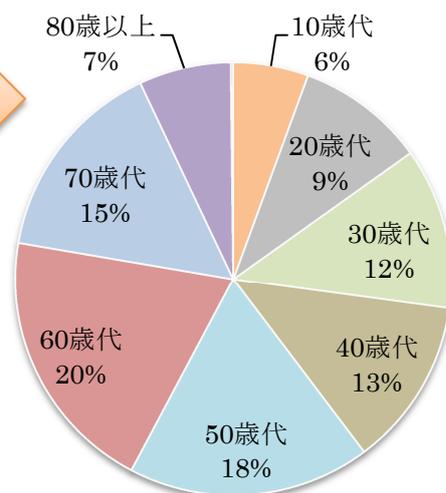
また、アンケートの自由意見では、基本構想に基づく庁舎建設の理念や位置について好意的なご意見を多く頂くとともに、進入路の幅や費用の抑制、高齢の方に優しい配置などについてのご意見も寄せられました。

今後は、アンケートの結果をもとに、外部有識者や町内各団体代表者で構成する新庁舎建設検討委員会からのご意見をいただきながら、新庁舎の具体的な機能や面積等についてまとめた計画(基本計画)を、今年8月頃を目途に策定していきます。また、7月には基本計画素案への意見をうかがうために、パブリックコメントを実施する予定です。

アンケートの概要

- ・対象者：約1,000人
町内在住の15歳(高校1年生)以上の方から、性別・年代・地区を考慮のうえ、無作為抽出
- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・期間：平成29年4月7日～平成29年5月8日
- ・回収結果：有効送付数：993件
有効回収数：558件

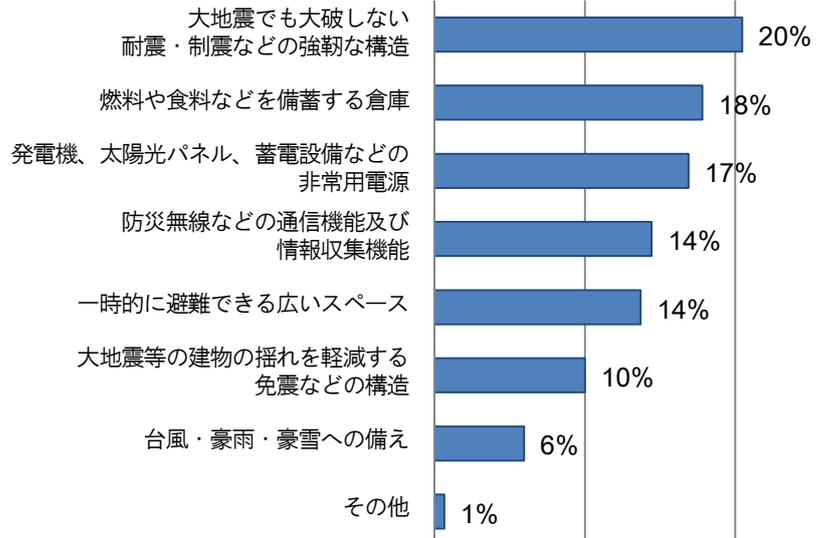
回収率：56.19%



機能 1 : 災害対策機能

大地震に強い強靱な構造が一番多く、次いで、備蓄倉庫、非常用電源、通信機能、避難スペースが続きました。

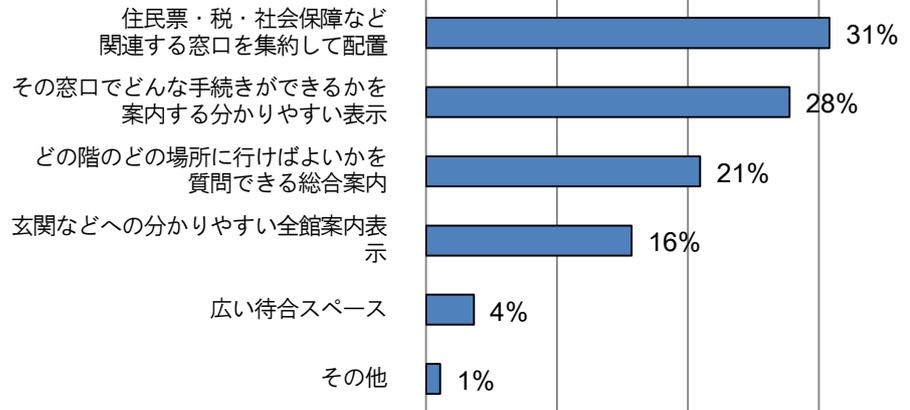
1番多いものから5番目まであまり差が開かなかったものの、強靱な構造はどの世代でも多くの支持がありました。また、80歳代以上では一時避難スペースが多く、30歳代以下では備蓄倉庫が多くなっています。



機能 2 : 町民窓口(案内)機能

関連する窓口の集約配置が最も多くなりました。なお、年代が上がるほど集約配置を選択する方の割合が多くなっており、特にご高齢の方にとって、1つの階や場所で用件が済むことが重要であることが分かります。

また、手続き内容の案内表示は、多くの世代で支持を受けており、総合案内は、女性の支持が男性より多くなっています。

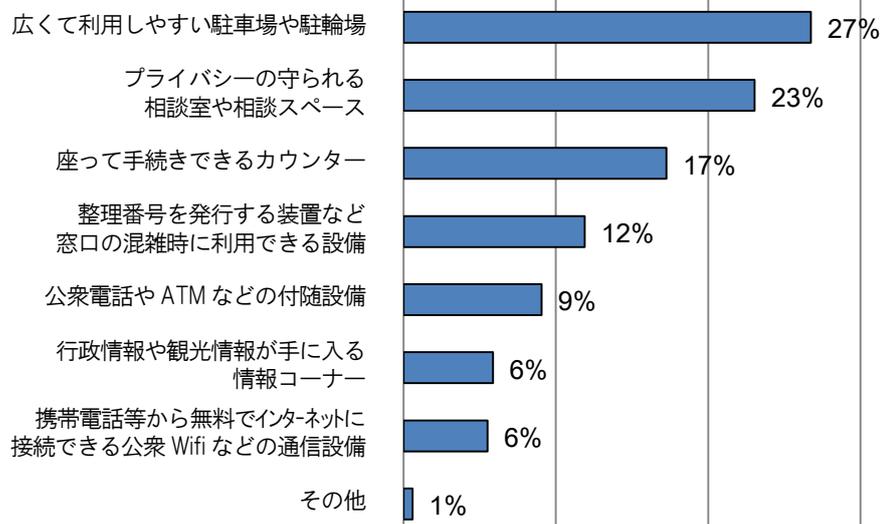


機能 3 : 町民窓口(相談・付帯)機能

広い駐車場駐輪場、相談スペース、座って手続きできるカウンターが上位となりました。

駐車場駐輪場、相談スペースがどの世代からも必要とされるほか、座って手続きできるカウンターは70歳代以上に次いで、30歳代以下からも支持がありました。

また、40歳代以下からは、発券機や公衆電話・ATMなどの付帯設備の充実にも支持がありました。

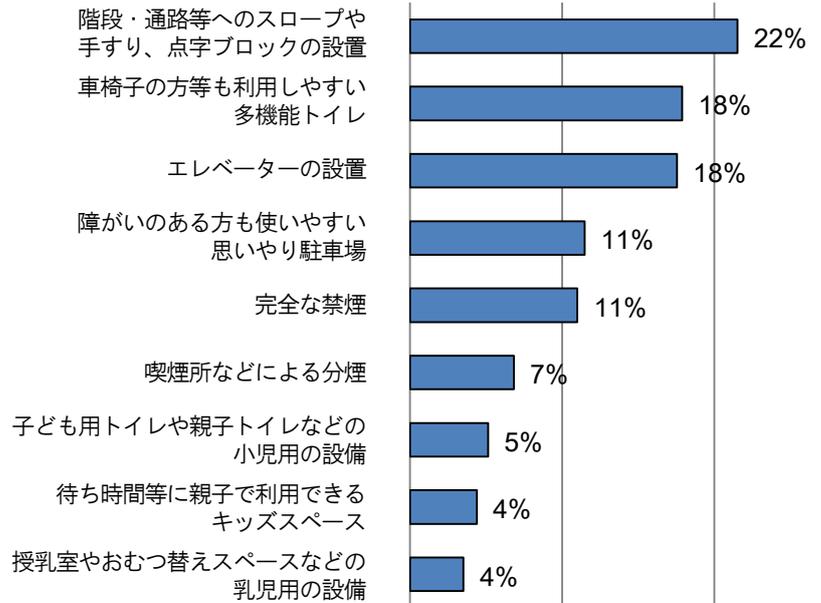


機能4：すべての人にとって使いやすい機能

歩きやすい階段通路、多機能トイレ、エレベーターがすべての世代で多くなりました。

また、思いやり駐車場にはすべての世代から、完全禁煙には50歳代以上の世代と女性からの支持があります。

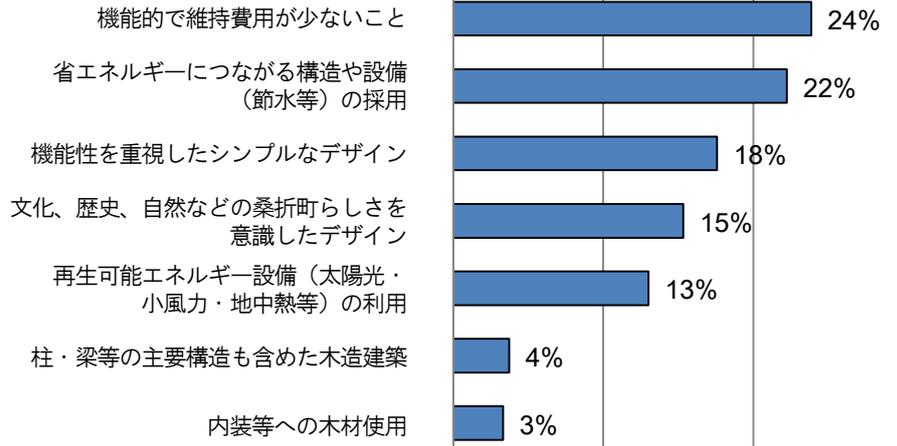
キッズスペースや小児用スペースには30歳代から多くの支持がありました。



機能5：特色ある機能

全体的には、維持費用の少なさ、省エネルギーなど、費用の低減化に支持がありました。

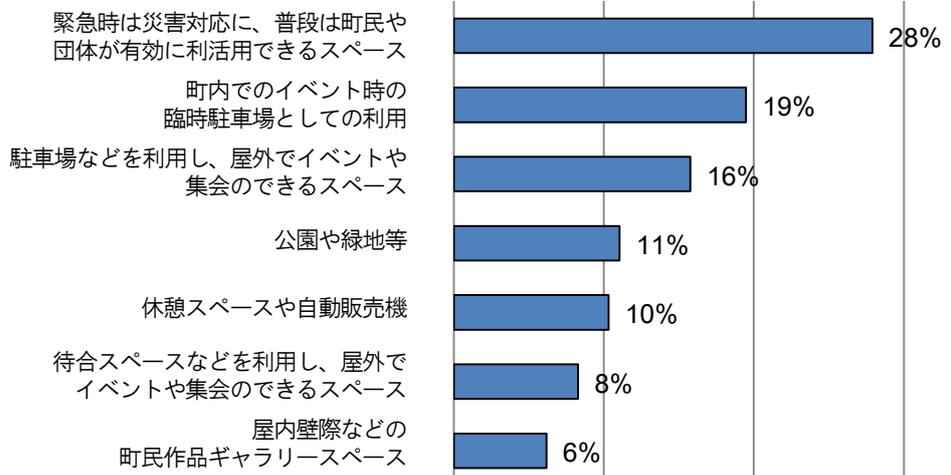
デザインについては、全体的にはシンプルなデザインが多い一方、30歳代～60歳代ではシンプル性、20歳代以下と70歳代以上では桑折町らしさが支持を受け、年齢層により差が出ました。



機能6：にぎわい創出・連携機能

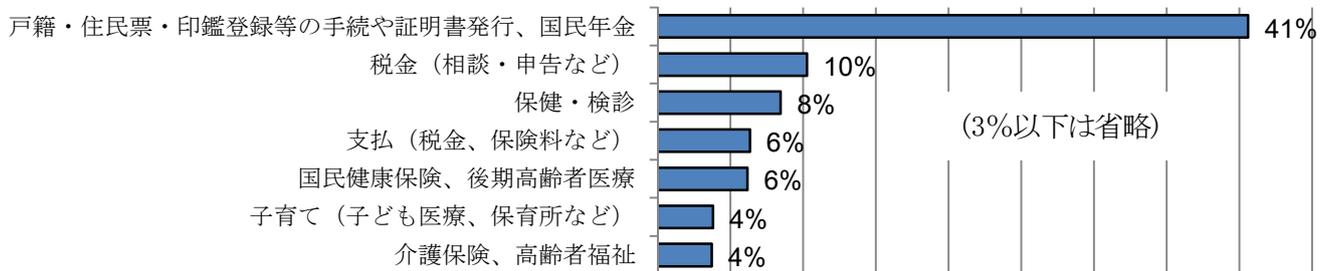
町民利用兼災害対策スペースやイベント時臨時駐車場に幅広い年齢層から多くの支持がありました。

また、屋外イベントスペースについては、60歳代～50歳代と20歳代以下から、公園緑地等については50歳代～30歳代と70歳代以上からの支持がありました。



来庁目的

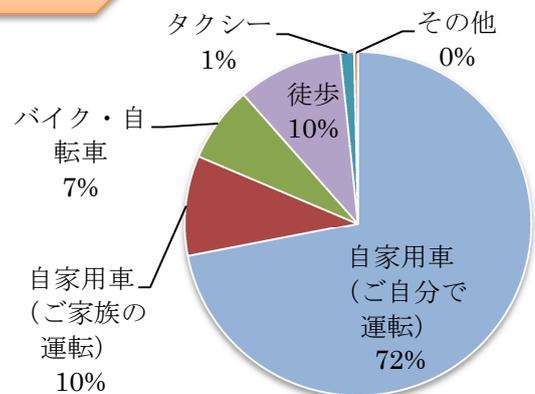
役場への来庁目的は、多い順から、戸籍・住民票等、税金、検診等、支払などとなりました。これらの業務を、所管課別に整理すると、税務住民課、保健福祉課、会計室等となります。新庁舎建設の6つの理念のうち、2つ目の「町民すべての優しく気軽に訪れやすい庁舎」の中では、町民の来訪の多い部門は1階に集約することとしており、アンケートで来庁者が多かった業務部門は、1階への配置を優先的に検討していきます。



来庁手段

来庁手段は自家用車が8割以上となりました。また、バイク・自転車等、2輪車での来庁者向けの対応も必要です。

庁舎を整備する上では、必要な駐車場や駐輪場を確保し、庁舎への移動もスムーズにできるように配慮しつつ検討を進めていきます。



新庁舎建設検討委員会が石川町と川俣町を視察

5月29日、外部有識者や町内各団体代表者で構成する新庁舎建設検討委員会の委員等で、新庁舎の先行事例視察を行いました。

午前は川俣町役場、午後は石川町役場を視察し、新庁舎に関する具体的なイメージをふくらませました。

石川町役場は平成28年9月に、川俣町役場は平成28年11月にそれぞれ開庁しており、今回の視察では、約半年強を経過しての感想や、倉庫等の不足などの反省点についても聞くことができました。

今回の視察において確認した点は、検討委員会会議などで共有し、今後の新庁舎に必要な具体的な機能についての議論に活かしていきます。



両役場の地下にある免震装置



石川町役場の広い窓口



石川町役場正庁（議場）にて